

保護者の皆様

令和8年10月9日

川崎市立岡上小学校
校長 齊野 裕子

令和8年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査
結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月14日（火）～16日（木）に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月23日（木）に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

学校教育目標 「つよい子 正しい子 ほがらかな子」
【つよい子（確かな学び、くじけぬ心、健康体力を培う）】主体的な学び合いと習得・活用・探究を通じた質の高い学習の実践
【正しい子（人と地域と自然と共に良く生きる基盤を培う）】人と地域の自然とに主体的に関わり、その良さを生かす学習の推進
【ほがらかな子（自他を認め、尊重する豊かな人間性を培う）】人権と多様性を認め、尊重することを基にした学習、児童理解と支援の推進

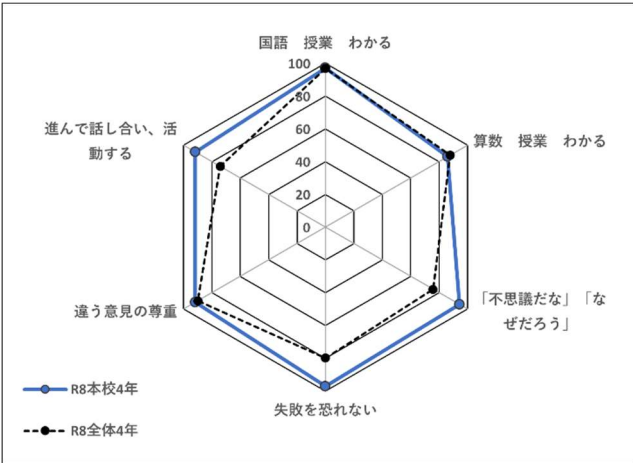
レーダーチャートの見方【共通】

- 「国語 授業 わかる」…国語の授業がわかる。
- 「算数 授業 わかる」…算数の授業がわかる。
- 「不思議だな」「なぜだろう」…ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。
- 「国語・算数 総合正答率」…国語と算数の全ての問題に対する正答率

【4年】

- 「失敗を恐れない」…難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。
- 「違う意見の尊重」…自分と違う意見を尊重している。
- 「進んで話し合い、活動する」…自分たちの学校での学習や生活をよりよくするために進んで話し合ったり、活動したりしている。

令和8年度 川崎市学習状況調査 4年生



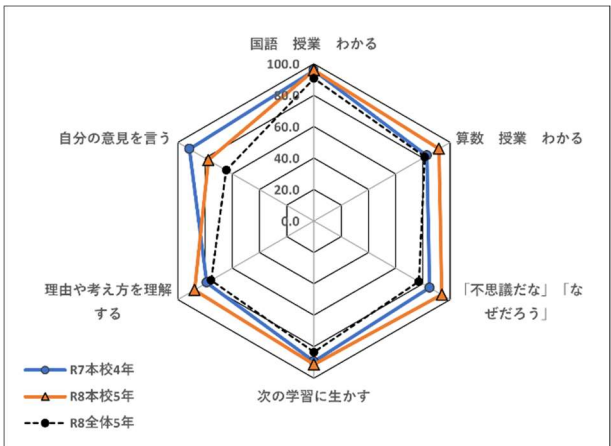
	国語 総合正答率	算数 総合正答率
R8本校4年	80.5	78.2
R8全体4年	67.5	68.8

学習の中で「不思議だな」「なぜだろう」と感じている児童は、全体（全国平均）を上回っています。自分から生まれる問いから次の学びにつなげようとする児童が多数いることがわかります。児童の主体的に人と関わることができる良さを生かして、友達の見解と自分の見解の相違点や共通点を見つけて探究できるような学習を継続して実践していきます。国語の総合正答率は80.5%であり、全体（全国平均）の正答率より13%高くなっています。また、「国語の授業がわかる」の回答が100%でした。これは、多くの子が「わかる・できる」という達成感をもって学習内容を理解していることがうかがえます。算数の総合正答率は78.2%と全体（全国平均）よりも9.4%高くなっています。しかし、「算数の授業がわかる」については、80%と国語より低い値になっています。苦手な内容やわからないことが解決できないままになっている児童が、少数いることがうかがえます。今後はわからないことをそのままにせず、互いに学び合う環境づくりをさらにすすめていき、国語と算数の理解度の項目（わかる）の2%増加を目指します。

【5年】

- 「次の学習に生かす」…新しく学習したことを、次の学習に生かそうとしている。
- 「理由や考え方を理解する」…授業で学習したことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。
- 「自分の意見を言う」…授業で安心して自分の意見を言うことができる。

令和8年度 川崎市学習状況調査 5年生



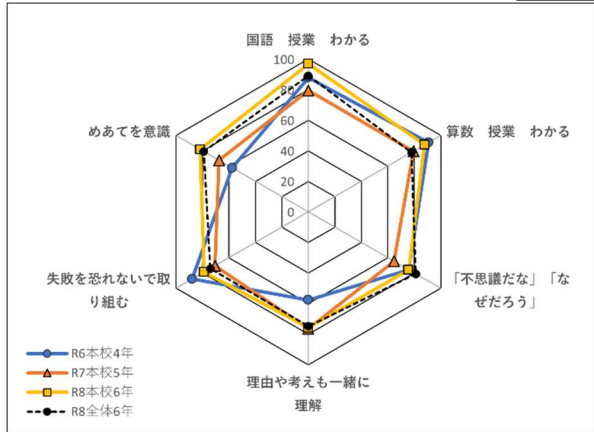
	国語 総合正答率	算数 総合正答率
R8本校5年	69	66
R8全体5年	66	63

前年度の比較である意識調査では、『ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。』（前年比8.8%増）『理由や考え方も一緒に理解しようとしている』（前年比9.1%増）という質問項目で肯定的な回答をしている値が大きく増加しました。授業の導入の工夫や傾聴の場面の設定により、探求心や思考の深まりに成果が見られます。教科の総合正答率についても、国語（全国66%に対して69%）、算数（全国63%に対して66%）ともに全体（全国平均）を上回り、学習内容が定着しています。「安心して自分の意見を言うことができる」（77.5%）は、全国平均を上回っています。一方で、前年数値に比べて低下が見られました。これは高学年となり学習内容が高度化・抽象化したことや、発達段階に伴い周囲の目を意識する心理が高まったことが影響したと考えられます。今後は、日常の授業において「定着・確認」に一層力を入れていきます。対話や振り返り等、アウトプットをする場面を設け、「安心して自分の意見を言うことができる」児童の10%以上の増加を目指します。

【6年】

- 「理由や考えも一緒に理解」…授業で学習したことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。
- 「失敗を恐れないで取り組む」…難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。
- 「めあてを意識」…それぞれの授業のめあてを意識して取り組んでいる。

令和8年度 川崎市学習状況調査 6年生



	国語 総合正答率	算数 総合正答率
R8本校6年	68	69
R8全体6年	63	63

全国学力・学習状況調査 6年生



今年度は、「国語の授業がわかる」（97%／前年比18%増・全国89%）「めあてを意識して取り組んでいる」（82%／前年比14%増・全国79%）が大きく向上し、目的意識をもって理解を深める姿勢が育ちました。「難しいことでも失敗を恐れず取り組む」（79%／前年比8%増）も伸びが見られます。総合正答率は、国語68%（全国63%）、算数69%（全国63%）と共に全国平均を上回っています。一方で両教科共、前年からの値は低下していることや、「不思議・なぜだろうと感じる」は、前年度より値が高い傾向にあるものの全国平均を下回っていることが課題としてあげられます。今後は、日常の授業で、「定着・確認」に力を入れ、学びの定着を図ります。また、探求的な発問や確認の場を充実させ、「不思議・なぜだろうと感じる」児童の10%以上の増加と、国語と算数の総合正答率の増加を目指します。